

## 令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	沖縄県南城市			代表者名	南城市長 古謝 景春
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	企画部DX推進課	連絡先電話番号	098-917-5337
担当者役職	係長	担当者氏名	小橋川星子	連絡先E-mail	
住所	901-1495 沖縄県南城市佐敷字新里1870番地				

#### 1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

#### 1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	DX人材育成及びマネジメント変革支援事業
概要	全庁的なDXの取組を進めていくため、経営層、管理職・DX推進リーダー・一般職員それぞれの視点に応じたマインドセットの醸成や、具体的なアクションに繋がる知識・スキルの習得が不可欠である。アドバイザー派遣を通じて、実践的な学びと組織全体の意識改革を図るための助言をいただきたい。		
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成）		

### 2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	695	令和8年1月29日	支援・助言&講演	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年12月5日	支援・助言&講演(実地)	12時00分	17時15分	
				活動時間（分）	315
2-2. 派遣場所	会場名	南城市役所	最寄駅	南城市役所バス停	
	所在地	沖縄県南城市佐敷字新里1870番地	最寄駅からの交通手段	自動車	

### 3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	森戸 裕一
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	受講者の多くが、自身の業務に直結する具体的かつ実践的なものと捉えていた。特に、AIを「思考の叩き台」を作るための「超優秀な部下」と定義し、心理的ハードルを下げた点や、業務を「15分単位」で捉え直す具体的なタイムマネジメント手法が、多忙な現場職員の共感が得られた。
アドバイザーへの要望事項	組織課題は多くあると思うが、自組織にあった課題解決に向けたアプローチ等引き続き助言いただきたい。

### 4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	37人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	37				

#### 4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	庁内にはDX推進の重要性について一定の理解が広がっているが、現場においては「何をどう進めればよいのか分からない」「現状の業務を変えることへの不安がある」などの声も多く、特にマネジメント層におけるリーダーシップの発揮や部下育成の手法、職員の主体性を引き出すための組織マネジメントのあり方について課題が顕在化している。また、全庁的な機運の醸成が不十分であり、各所属での取組に温度差があるのも実情である。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	組織変革のための管理職の組織マネジメント力の向上、DX推進リーダーの育成、一般職員の意識改革を継続的に行うことで、庁内各所での主体的な取組や、DXを軸とした新たな業務改善提案等の形で成果が表れ始めることを想定しており、サービスを受ける市民だけでなく、職員のウェルビーイング向上を目指す。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	従来の事務執行という役割に加え、デジタルを前提に業務のあり方を捉え直す「設計者 (Architect)」という視点を持つことの重要性を共有した。生成AIについても「思考の叩き台を爆速で作る優秀な部下」と位置づける考え方を紹介し、テクノロジーをより身近に活用するためのヒントを提示した。また、時間管理の考え方として、業務を15分単位で捉え直す手法や、多忙な現状の中で「未来を考える時間」を捻出する重要性について言及した。あわせて、業務改善の原則 (E CRS) や As-Is/To-Be分析を用い、現場の課題から解決策を導き出すための思考のフレームワークを提示することで、リーダーによるマネジメントの高度化に向けた気づきを促した。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	時間管理においては、「15分単位」の視点や会議短縮の重要性が示されたことで、従来の長時間業務を見直す具体的な契機となった。受講者からは、AIを資料作成の叩き台として活用し、捻出した時間を「未来への投資」に充てるといった、業務過多の解消に向けた意欲的な声が上がった。また、E CRSの原則やAs-Is/To-Be分析を用いた手法の提示により、現場の課題を構造的に整理し、デジタル技術を組み合わせた解決策を導き出すための基本的な考え方が共有された。これら一連のプロセスを通じて、前例踏襲を打破する本質的なDXへの道筋が明確化され、より円滑で効率的な組織運営に向けた重要な一歩となった。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑦その他
	本支援はDX推進に向けた意識醸成を主眼としたため、現時点で特定の物理的な成果物は設定していない。取り組みはまだ途中段階ではあるが、参加した管理職およびリーダー層のDXに対する理解は深まり、業務改善を自律的な課題と捉える当事者意識を共有することができた。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	初年度の取り組みとして管理職や推進リーダーの意識醸成と手法の共有に主眼を置いたため、実務への落とし込みや具体的な成果物の創出は次年度以降の継続課題となった。今後は、全庁的な意識レベルの底上げを図るとともに、現場の改善案を組織的に評価・予算化する承認プロセスの構築に向けた検討を引き続き行う必要がある。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 分析結果概要をPDFにて添付します。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	⑤その他
	今後は、未受講の監督職や一般職への意識醸成を図るとともに、推進リーダーによる具体的な提案の場を創出する。あわせて、管理職を対象とした「提案に対する意思決定の在り方」を含む研修を継続し、実効性のある全庁的なDX推進体制の構築を目指す。	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	組織変革のための管理職の組織マネジメント力の向上、DX推進リーダーの育成、一般職員の意識改革を行い、庁内各所での主体的な取組や、DXを軸とした新たな業務改善提案等の形で成果が表れ始めることを想定しており、サービスを受ける市民だけでなく、働き方も見直すことで職員も双方の幸せに繋げる。	

5. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可		<a href="https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/">https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/</a>
掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可	

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子
今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真 (JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。

